

男女共同参画の推進について

【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、男女がお互いを尊重し、あらゆる分野でそれぞれの個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「女性がいきいきと働き活躍できること」を重要な施策のひとつに掲げ、計画期間を平成28年度から令和2年度とする「第4次福岡県男女共同参画計画」を策定し、様々な施策・事業を推進しています。

また、DV（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある女性への支援も、男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

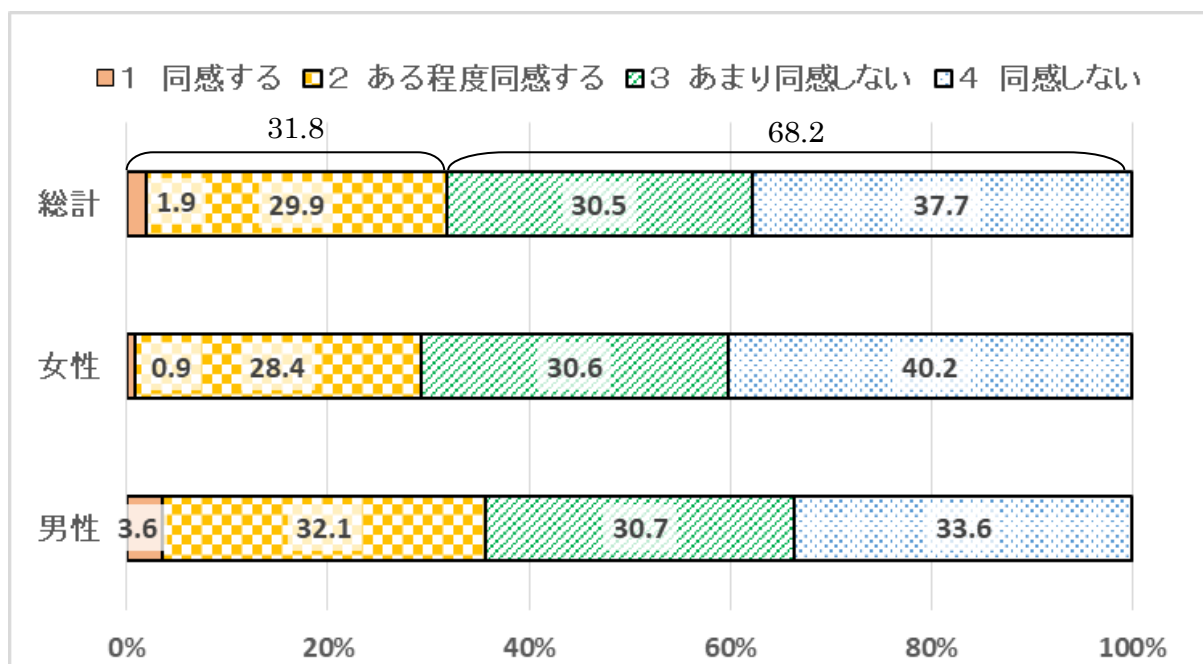
こうしたことから、今後の男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するとともに、DVについての認知度、相談窓口の周知度等を把握するため、調査を実施するものです。

(人づくり・県民生活部男女共同参画推進課)

問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が31.8%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が68.2%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。

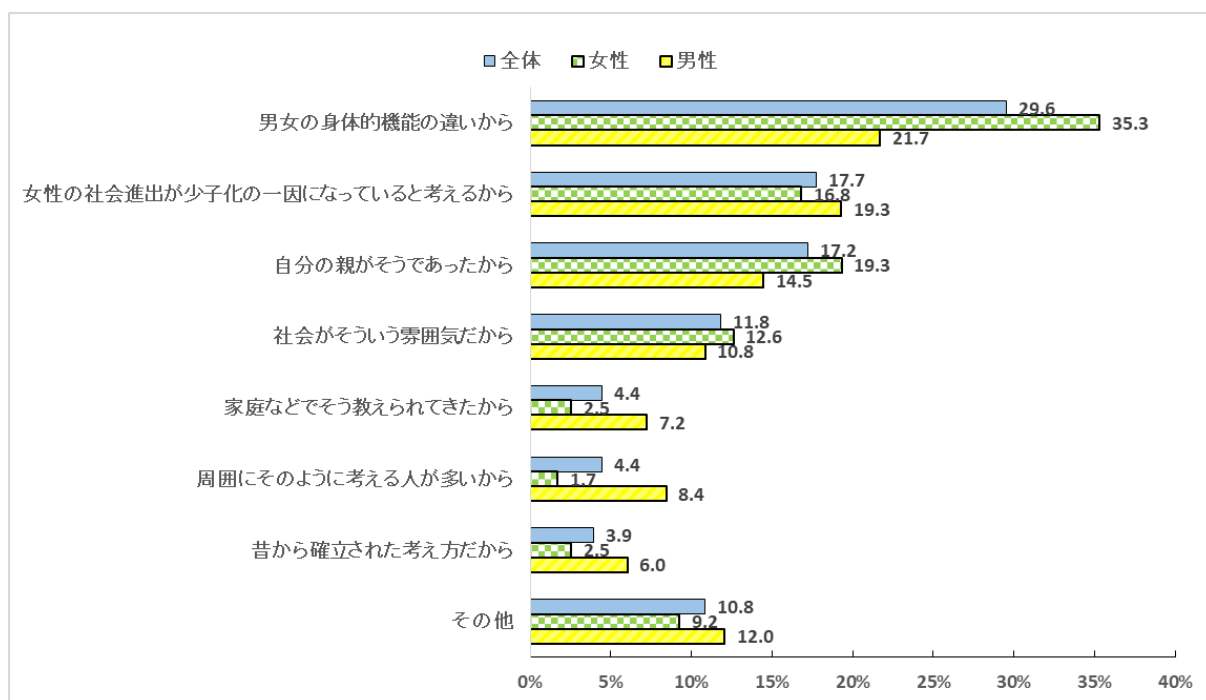


問1-2 (問1で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。)

あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

【回答】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(29.6%)の割合が最も多く、次いで、「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」(17.7%)、「自分の親がそうであったから」(17.2%)の順となっている。



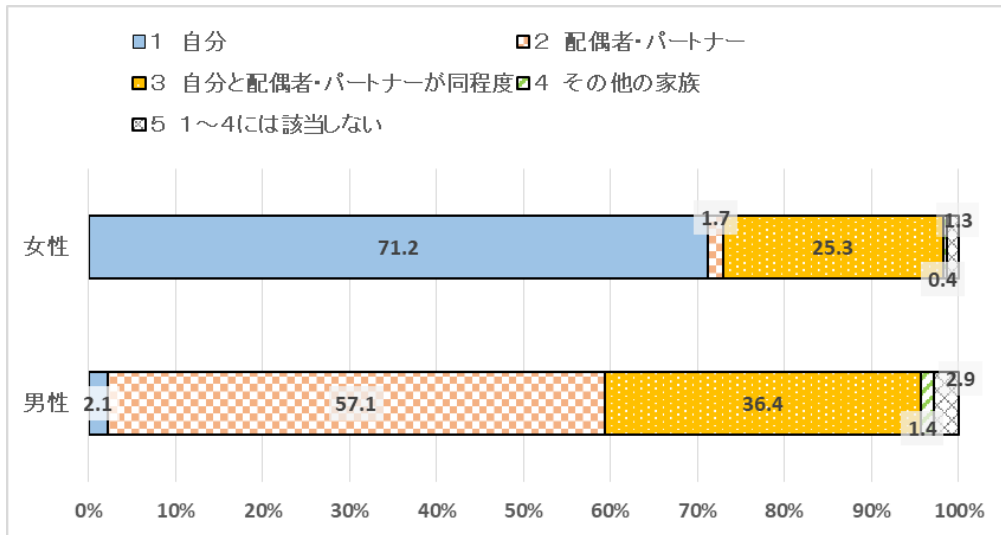
(その他) 抜粋

- ・ 基本的には男は経済力で家族を養う使命を感じているのと、女は家庭を守る必要性を感じている。時代は助け合う関係で少しずつ変わっているけれどもまだまだ義務という意識があるから。
- ・ 社会のサポート体制が整備されている場合は、女性の社会進出も賛成するが、今の日本の現状はそうではないと感じる。
- ・ 子育てには母親の存在は絶対的。男に家族を養う収入があれば、それでよいと思う。
- ・ 一般的に、女性はコミュニケーション能力が高く、近所付き合いが得意で、子供にとっても、母親と一緒に過ごす時間が多いほうが、精神的に安定すると思う。

問2 あなたの家庭では、炊事・洗濯・掃除などの家事について、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

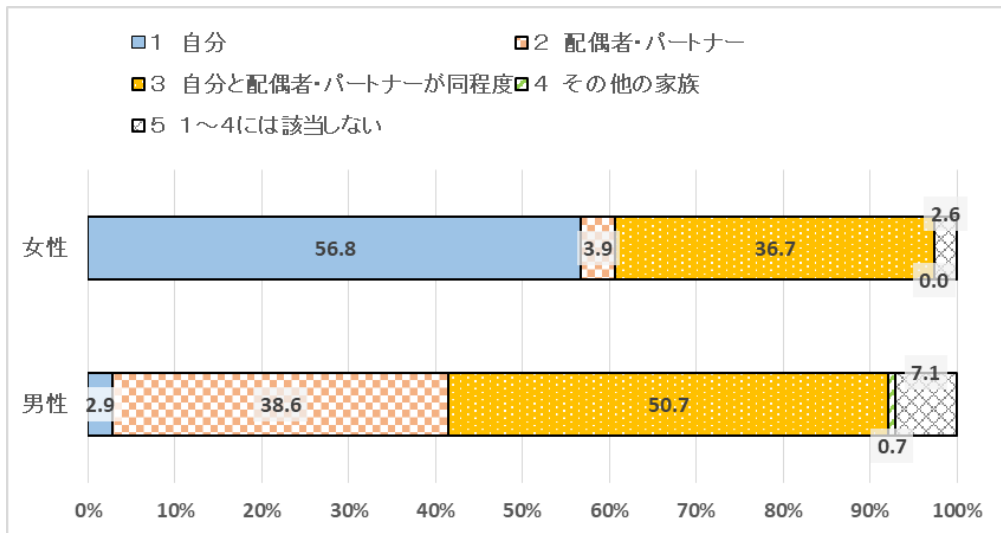
家事を行うのは、女性は「自分」（71.2%）、男性は「配偶者・パートナー」（57.1%）で最も多い。「自分と配偶者・パートナーが同程度」は、女性が25.3%、男性が36.4%と男性の方が11.1ポイント多く、男女の違いがみられる。



問3 あなたの家庭では、育児・子どものしつけについて、あなたと配偶者・パートナーのどちらが主にされていますか（配偶者・パートナーや子どもがいない方は、いると想定してお答えください。）

【回答内容】

育児を行うのは、女性は「自分」（56.8%）が最も多く、次いで「自分と配偶者・パートナーが同程度」（36.7%）となっている。男性は「自分と配偶者・パートナーが同程度」（50.7%）が最も多く、次いで「配偶者・パートナー」（38.6%）となっている。



問4 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っていますか。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは
配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

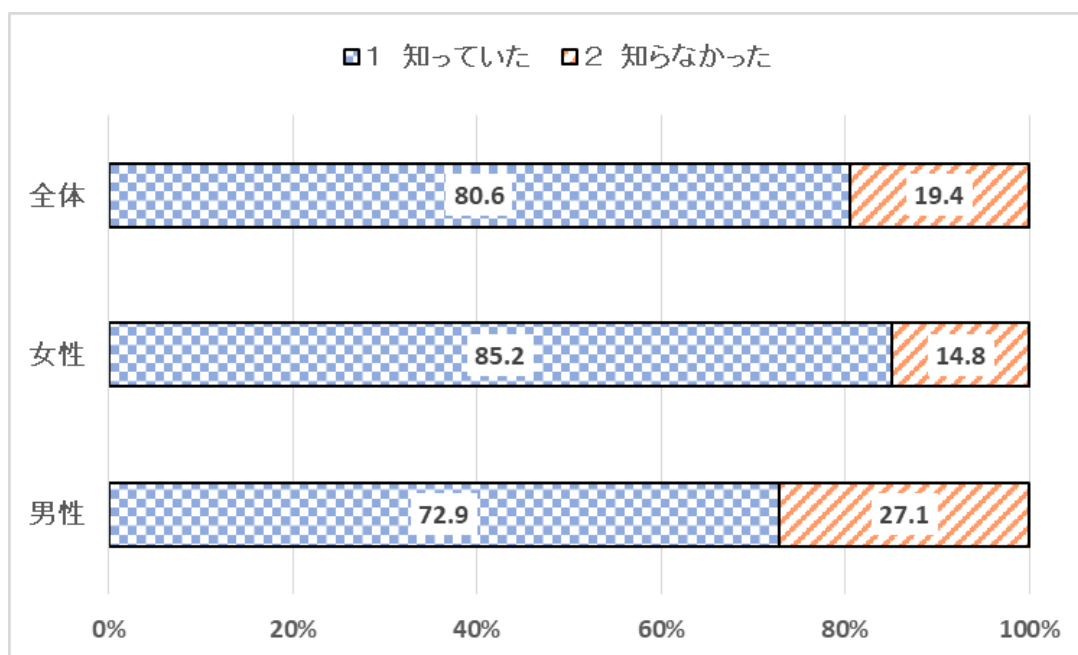
【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

※県内12ヶ所の配偶者暴力相談支援センターで相談を受け付けています。

【回答内容】

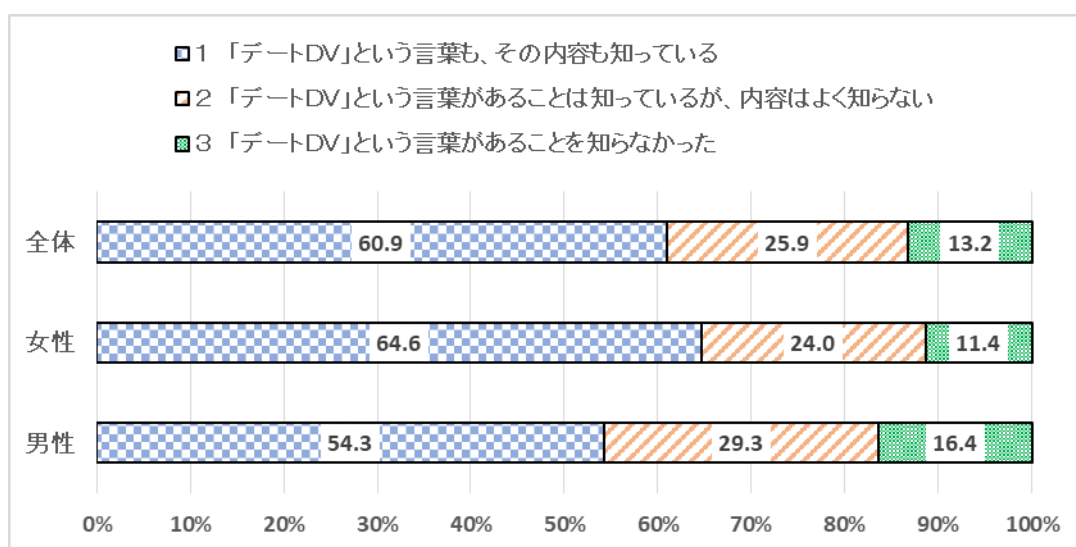
DVについて相談できる窓口があることを「知っていた」と回答した人は、女性は85.2%、男性は72.9%である。



問5 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。

【回答内容】

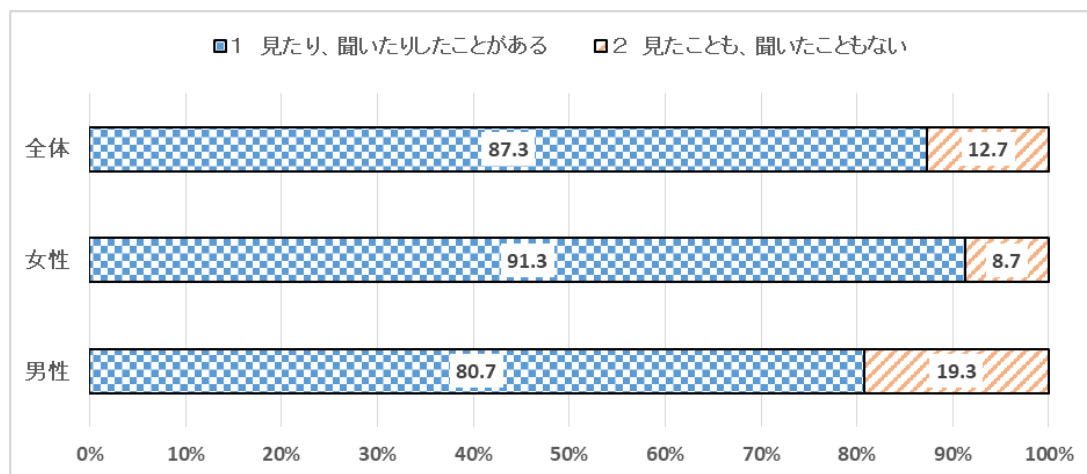
全体では、「言葉も、その内容も知っている」が60.9%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が25.9%、「言葉があることを知らなかった」が13.2%となっている。また、「言葉も、その内容も知っている」と答えた人の割合は、女性で64.6%、男性で54.3%となっており、男女で10.3ポイントの差がみられる。



問6 あなたは、DV防止に関する広報を見たり、聞いたりしたことがありますか。

【回答内容】

全体では、「見たり、聞いたりしたことがある」は87.3%、「見たことも聞いたこともない」が12.7%となっている。

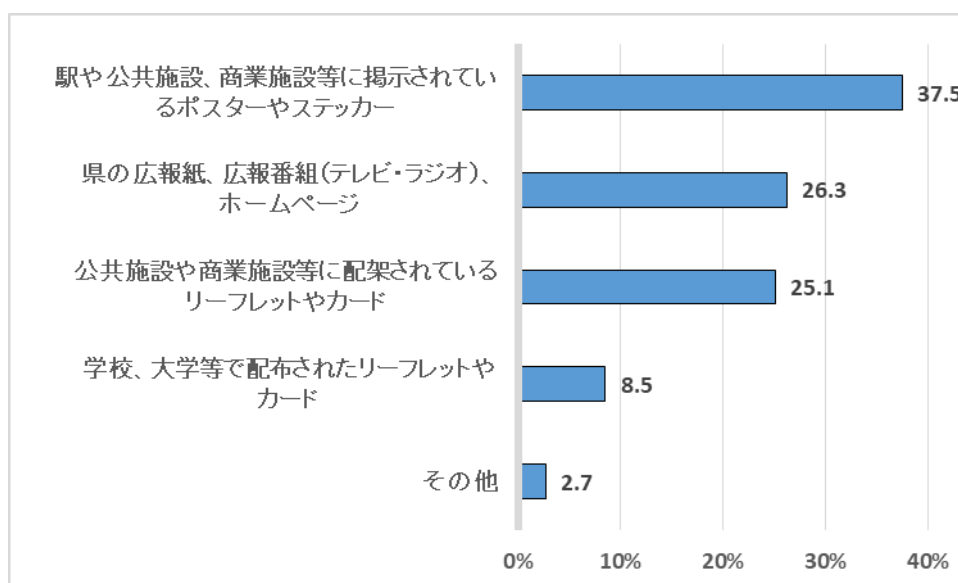


問6-2 (問6で「1」を選択された方にお尋ねします。)

あなたが見たり、聞いたりした広報の媒体はどのようなものでしたか。(〇は2つまで)

【回答内容】

「駅や公共施設、商業施設等に掲示されているポスターやステッカー」が最も多く(37.5%)、次いで、「県の広報誌、広報番組(テレビ・ラジオ)、ホームページ」(26.3%)、「公共施設や商業施設等に配架されているリーフレットやカード」(25.1%)の順になっている。



(その他) 抜粋

- ・市町村の男女共同参画センター
- ・各種講習や講話
- ・駅や病院、コンビニエンスストアのトイレ
- ・ニュースやドキュメンタリー番組

問7 男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】

「ある」と回答したのは24.3%となっている。

(意見) 抜粋

- ・ 男は仕事、女は家庭という思想は、押し付けてしまえば古臭く時代にそぐわない考え方だが、決して悪いものではなく、男性と女性が比較的得意であろうことの役割分担をある程度合理的に捉えた枠組みだと思う。
- ・ DV についての教育を性教育や貧困問題などからめて小学校から取り入れてほしい。子どもの虐待もそうだが「自分のされてること、していることはおかしい」「相手の嫌がることをしない」ということを認識できるような教育に時間をつかってほしい。
- ・ 男性は妊娠、出産、育児以外の事をカバーするしかないのは昔から変わっていないが、女性はそれに加えて仕事まで男性並みに求められ、少し方向性が違うようにも感じる。男性が会社で働く以上の働きを、女性がしていることにもう少し気付くべきとも思う。
- ・ 私は家庭の主婦だが、子供の学校の役員や、地域との関わり、ボランティア活動などで「いきいきと活躍」していると自負している。女が仕事をするだけで男女共同参画なのでしょうか。
- ・ 女性が社会に進出し、男性が家庭や地域に進出するという考え方の男女共同参画の流れを感じている。しかしこれまで分担することで合理的であったという観点からいうと負担増を感じている男女も居るといふ実感もあります。男女が性別関係なくお互いの生活を築き共に助け合うような視点がこの先より共有されていくといいと思う。
- ・ DV 被害は、女性が主ではあるが、男性の被害者もいる。また、男女で差がある問題として、給与所得もあげられると考える。
- ・ 子育てをしている女性が働く上で聞かれることが、子どもが産まれたときや、熱を出したときの対応など。なぜ女性ばかりが聞かれて窮屈な思いをしなければいけないのか。男性も育休がとれる世の中にするべきだと思う。
- ・ 福岡県内の市町村に、男性議員しか居ない「女性ゼロ議会」がいくつかあるのは問題だと思う。女性議員が増えれば男女共同参画のみならず、少子化の問題の改善も進展するのではないか。